

演題 3	<b>当院でのワークライフバランスの取り組み</b>
	発表者 藤井 千真 (岡山県 矢掛町国民健康保険病院) 共同研究者 三宅 舞子、笠原 理沙、村岡 孝幸

**当院でのワークライフバランス  
への取り組み  
～申し送り廃止の効果を検証する～**

矢掛町国民健康保険病院

○藤井千真 三宅舞子 笠原理沙 村岡孝幸

**矢掛町国民健康保険病院**



当院は岡山県南西部に位置する、人口約 1.5 万人の矢掛町唯一の公立病院です。内科、外科を中心とし 24 時間体制で近辺地域の救急にも対応し、地域医療の中核を担っています。右下は矢掛町公式キャラクター「やかっぴー」です。

**矢掛町国民健康保険病院**

- 病床数: 117床 (一般, 療養病床)
- 一般入院基本料: 10対1
- 看護勤務体制: 3交代
- 平成29年2月時点での一般病床稼働率 95%

総看護職員数 72名  
平均年齢 39.9歳

○当院は一般病棟57床, 療養病棟60床の117床です  
一般病棟は10対1の入院基本料、うち10床は地域包

括病床です。

一般病棟は 8 時間ごとの三交代制です。総看護師数 72 名, 平均年齢 39.9 歳です。

**当院の申し送り業務**

- 申し送り用紙の作成後に口頭で伝達する。
- 所要時間は約35分間であった。
- 平成27年8月に申し送りを廃止した。
- 以後各自が電子カルテを閲覧するのみとした。

電子カルテの導入後も看護職員の申し送り業務は、必要事項を記載した申し送り用紙を作成した後に、口頭で説明する形式の申し送りを約 35 分間かけて行っていました。

平成 27 年 8 月にこれを廃止し、以後は各自が電子カルテを閲覧し情報収集を行いミニカンファレンスを行う形式へ変更しました。

**【研究目的】**

- 申し送りによってベッドサイド業務 (以下BSW) の滞る時間帯が発生することから、これを廃止する施設が増加している<sup>1)</sup>。
- 申し送り業務廃止の効果を検証する。

1)申し送り廃止までのプロセス. 大竹ら: 日産医誌 2000

申し送り業務を特定の形式で行うことにより、必要事項を確実に伝達できる利点がある一方で、この時間帯にはベッドサイド業務（スライドでは以下 BSW と表記します）が滞る時間帯が発生するため、近年これを廃止する施設が増加傾向にあります。そこで当院での申し送り業務廃止がどのような変化をもたらしているか検証することとしました。

### 【研究方法】

- 一般病棟勤務看護師に無記名式の3段階評価尺度調査を行った.
- 質問内容
  - ①BSWの開始時刻
  - ②BSW所要時間
  - ③超過勤務時間
  - ④看護記録量・内容に関する変化
- 統計解析はχ<sup>2</sup>乗三群検定を行いp<0.05を有意とし、P<0.1を傾向があるとした.

方法は無記名式の評価尺度による書式アンケート調査です。主としてベッドサイド業務の開始時刻、ベッドサイド業務の時間、超過勤務時間、看護記録の内容に関する変化について調査しました。X<sup>2</sup>乗三群検定で解析しています。

### 申し送り所要時間の変化

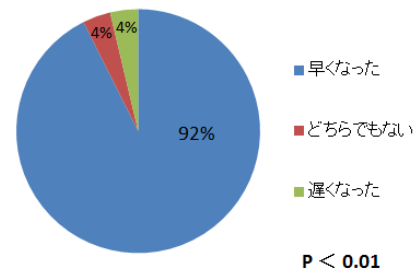
- 平成25年申し送り所要時間平均33.1分
- 平成29年カンファレンス所要時間平均9.2分



**BSW開始までに平均23.9分短縮された**

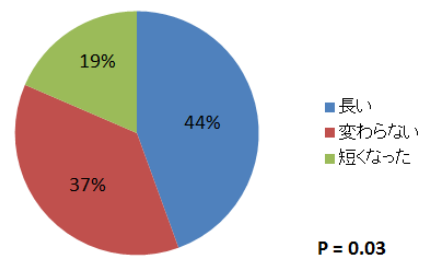
まず、ベッドサイド業務開始までに要した時間の変化です。申し送り実施中の平成 25 年では平均 33.1 分の口頭での申し送りを実施していました。申し送り廃止後の平成 29 年には、平均 9.2 分のミニチームカンファレンスに変更しました。平均 23.9 分の時間短縮がありました。

### 【結果 ① BSW への取り掛かり時刻】



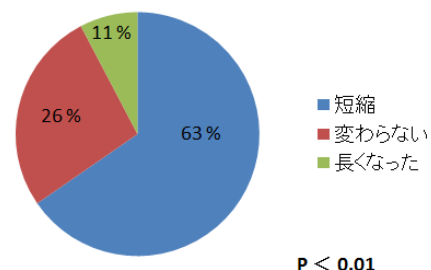
ベッドサイド業務を開始した時刻が申し送り実施時代に比して、早まったとする実感が圧倒的に高くなっています。統計的優位差があります。

### 【結果 ② BSW 所要時間】

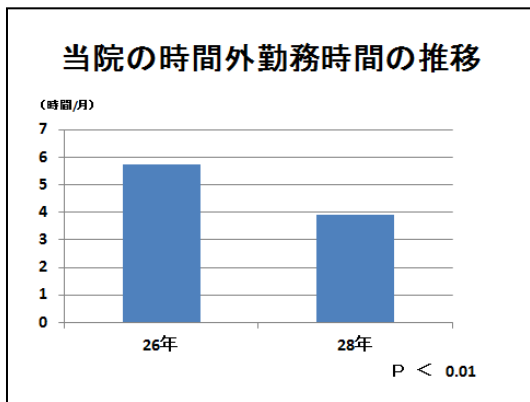


そしてベッドサイド業務時間の合計は、これが延長したとの回答が優位差をもって示されました。

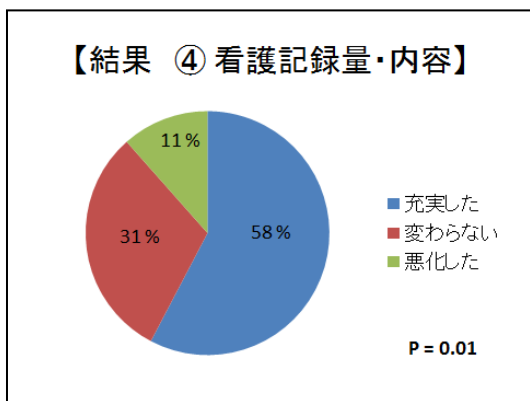
### 【結果 ③ 時間外勤務時間】



続きまして時間外勤務の増減に関する実感を質問したところ、大多数が短縮したとの回答でした。



こちらは給与記録を遡って調査し割り出した時間外勤務時間です。1カ月あたり当院の看護師1名あたり平均6時間の時間外勤務がありましたが、申し送り業務を廃止した平成28年は、同平均4時間弱と短縮しています。



最後に看護記録量・内容は過半数が充実したとの回答です。申し送り廃止に伴い、後続勤務者への必要事項伝達は、主として看護記録によるため、この充実を実感する看護師が多い結果は必然ともいえます。

### 当院全看護師の離職率

	在職	離職
平成26年	61	11
平成28年	68	4

離職率が低下する傾向にあった (P = 0.06).

ちなみに当院看護師の離職率は申し送り業務実施時期である平成26年には15%で、申し送り廃止中の平成28年には6%でした。離職率の

低下傾向を認めます。

### 【結果のまとめ】

- 申し送り廃止に伴い、BSWの取り掛かり時刻が早まり、BSW自体の所要時間が延長した。
- 時間外勤務が減少し、この時期に離職率が低下する傾向を示した。
- 看護記録が充実した。

申し送り廃止に伴い、ベッドサイド業務開始が早まり所要時間は延長しました。時間外勤務が減少し、この時期に離職率が低下する傾向を示しました。また看護記録が充実するという副次的効果がありました。

### 【考察】

～看護師のワークライフバランス向上に必要な要素～

- 過剰労働の回避
  - 短時間外業務時間短縮
- 人員不足による個人の仕事量増加の回避
  - 申し送り事前に早退する時短勤務者も患者を担当できる
- 労働意欲の維持・向上
  - 看護の中心的業務(BSW)割合の増加
- 望まない離職の回避

仕事と生活の調和に関する主な制度: 厚生労働省 仕事と生活の調和

今回は申し送り業務廃止の効果をワークライフバランスの観点から考えました。ワークライフバランスの向上については、・過剰労働の回避 ・個人の仕事量調整の大切さ ・労働意欲の維持向上 ・望まない離職の回避 等が必要な事項となると思います。この中で今回の調査の結果、時間外業務時間の短縮は最も大切な事項であるととらえます。また当院では複数の短時間勤務看護師が勤務しています。従来入院患者の受け持ちを正規勤務看護師のみが担っていましたが、平成28年以降は申し送り時間には既に退勤していた短時間勤務看護師も受け持ち患者を担当するシステムに変更することができました。これによって人員不足による個人の仕事量増加といった問題回避に役立っています。また看護師の基本的な業務であるベッドサイド

業務に時間をかけられることは、労働意欲の維持向上に役立つものと推察します。これらのことから、時間的制約などから家事業務との両立を断念した結果生じる望まない離職を回避することができれば、先の人員不足に陥る職場の問題出現を未然に防ぐ効果があるもと考えます。

### 【結語】

- 申し送り廃止に伴い、BSWに業務の主体が移行し、時間外勤務時間が短縮した。
- 申し送り廃止はワークライフバランスの観点からも望ましい。
- 申し送り廃止を補完するために看護記録が充実している。
- 当院の申し送り廃止は有効に機能している。

結語です申し送り廃止に伴い、業務の主体がベッドサイド業務に移行し、時間外勤務時間が短縮しました。申し送り廃止はワークライフバランスの観点からも望ましいといえます。当院の申し送り廃止は有効に機能しております。

ご清聴ありがとうございました



御清聴ありがとうございました。